

ともに生きるまちへ

数字でみる

多文化の町

①国籍別外国籍住民数（人） ※ 2020 年 1 月末時点

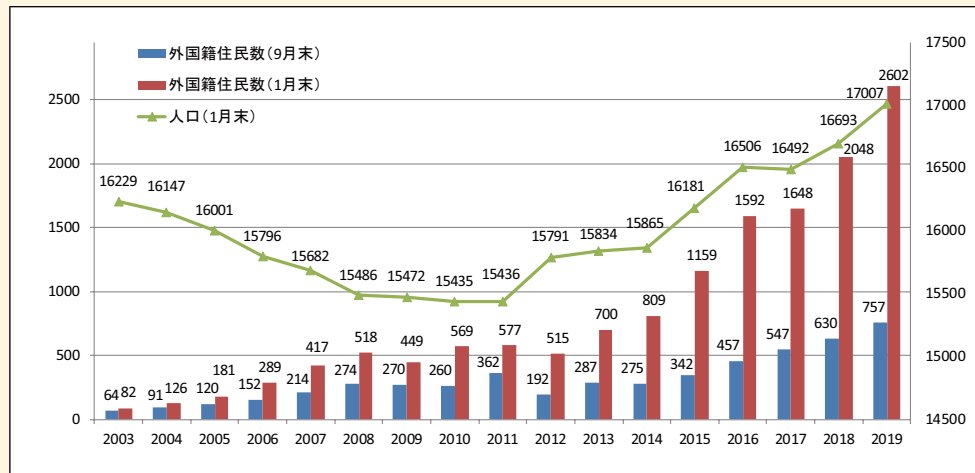
国籍別では、最多のオーストラリアが全体の約 3 割を占めています。2 番目以降は、英国、台湾、カナダと続き、欧米やアジアなど多国籍化していることがわかります。

国・地域名	人 数
オーストラリア	738
英国	476
台湾	195
カナダ	124
ニュージーランド	114
中国	114
その他	841

②外国籍住民数の推移（人） ※ 2003 年度～

2006 年度頃から、観光客を受け入れるにあたり不足する労働力を補うため、俱知安町で働く外国籍住民が徐々に増え始めました。2013 年度以降は、冬期（1 月）において毎年度過去最多を更新しています。

また、夏期（9 月）においても 2015 年度以降、毎年度増加しており、町に定住している人数も増えていることがわかります。



※ 2012 年 7 月の外国人登録制度廃止に伴い、2012 年度以降の人口は外国籍住民数を含む

俱知安町では外国人観光客の増加を背景に外国籍住民が増え始め、当初は通勤などの利便性もあり、スキー場周辺の従業員宿舎や寮などに多く居住していました。しかし、近年は外国籍住民数の増加により、市街地にも広がりを見せており、その存在は私たちの暮らしの中で、非常に身近になっていきます。

このような中、町民からは、平成 29 年に町が実施した「第 6 次総合計画策定に係るまちづくり町民アンケート結果」などを通じ、地域の国際化による効果への期待とともに、外国籍住民の急激な増加への不安の声が聞こえるようになりました。

町は多文化共生の実現に向けて、さまざまな取り組みを行ってきましたが、急速に変化する状況を踏まえ、国籍にとらわれず全ての住民が安心して暮らせる地域を目指すため、多文化共生の現状や課題を把握することが必要と考え、昨年 9 月「多文化共生に関するアンケート調査」を実施しました。

国際化する町への期待 一方で不安の声も

多文化共生の実現に向けた町の取り組み

暮らしとことばの支援

外国籍住民が知らない土地での生活に困らないため、町が行っている主な取り組みを紹介します。

生活ガイドブック

俱知安町で暮らすための手続きや情報を日本語と英語の両方で記載。外国人転入者が増え始めた 2007 年 11 月に初版を発行。毎年改訂作業を行っています。

学習支援員の配置

日本語の理解が十分ではない外国人などの児童・生徒に対し、授業における通訳や日本語指導などの学習支援を行っています。

その他にも

- 防災無線の多言語放送
- 町民向け英語研修
- 英語対応可能な職員の配置
- 町内総合病院への外国人患者対応に係る費用補助など

地域の一員として 外国籍住民への期待

「15%」
この数字は今年 1 月末現在の俱知安町民全体に占める外国籍住民の割合です。

今年 1 月末現在、俱知安町に暮らす外国籍住民は 2602 人と、過去最高を記録。同時に住民基本台帳上の人口が 24 年ぶりに 1 万 7 千人を超えました。

平成 30 年 12 月の「出入国管理及び難民認定法」いわゆる入管法の改正など、全国的にも、増加傾向にある外国籍住民は、労働力不足解消に向けた地域経済活性化の担い手となってきました。

また、少子高齢化や单身世帯の増加などにより、地域コミュニティの希薄化が危惧される中、俱知安町では、平成 30 年に「俱知安町町内会等への加入及び参加を促進する条例」を施行。地域住民の定義を「国籍や居住期間の長短を問わず町内に居住するすべての個人」とし、外国籍住民の地域社会の一員としての役割など、その存在にさまざまな期待が寄せられています。

歩み寄る気持ちが必要 共に町を元気に

見知らぬ土地で暮らしを始めるとき、多くの人がさまざまな不安を抱えています。

言語はもちろん、その国の文化や風習、地域のルールなど、たくさんの違いを全て理解することは、私たちが外国で暮らす上でも容易なことではありません。

外国籍住民は、今後さらに地域に必要な不可欠な存在になっていきます。俱知安町がさらに元気に、暮らしやすい町となるために、外国籍住民を含む俱知安町民一人一人が、町の現状を知り、互いに歩み寄る「多文化共生」の意識を持ち、共にまちづくりを進めることが大切です。



ラミレス・アルネリト・ジュニアさん

(フィリピン国籍)

フィリピン出身のラミレス・アルネリト・ジュニアさんは、結婚を機に来日。現在は息子さんも増え、家族3人で生活しています。タガログ語や英語など、複数の言語を話すことができるが、日本語については、簡単な会話やひらがなの読み書きができる程度で、まだ苦手だというラミレスさんに話を聞きました。

——日本語って難しい？

「同じ言葉で違う意味の単語や、違う言葉で同じ意味の単語が多いので、苦労しています。また、日本語の文章は漢字とひらがなが両方入っているので難しいです」

——倶知安での生活は？

「外国人とのコミュニケーションに慣れている人が多く、英語が完璧でなくても、簡単な単語を使って伝えようとしてくれるので助かっています。お互いのためにも、外国人と地域の人がもっと交流する機会があると良いと思います」

——交流のためには？

「さまざまな国籍の人が住んでいるので、日本人を含め、それぞれが自国の文化を紹介し合う機会があれば良いと思います。そうすることで、互いの文化を知ることができます」

——これからの生活は？

「スノーボードを始めたので、子どもと一緒にスキー場へ行きたいです。町内会など地域の人と交流するのも楽しみの一つです」

外国籍住民の増加とともに、多国籍化が進むと、相手の母語による会話はより困難になります。アンケートの結果からは、日本語での会話がある程度できるという外国籍住民が一定程度いることや、日本語学習意欲の高さが伺えます。

ここで紹介する「やさしい日本語」は、日本語が完璧ではないという人にも伝わりやすい「易しい」日本語であり、敬語や専門的な言葉を用いないことから、子どもをはじめ多くの人々にも「優しい」日本語です。

外国語がわからないからと、コミュニケーションを諦めていた方は、次のポイントを意識して「やさしい日本語」を使ってはいかががでしょうか。

ポイント/

複文を短文に

牛乳を買って帰ります。
↓
牛乳を買います。
それから、帰ります。

ポイント/

漢語・カタカナ語を和語に

避難して！⇒逃げて！
キャンセル⇒取り消す

ポイント/

敬語を普通語に

お召し上がりください
↓
食べてください

多文化共生は みんなのために

町が今年度実施した「多文化共生のまちづくりに関するアンケート調査」では、外国籍住民 729 人と、日本人住民 1,271 人に対し、調査票を送付。外国籍住民 166 人、日本人住民 501 人から回答を得ました。

ここでは、アンケート調査の結果を一部掲載する他、倶知安町で暮らす外国籍住民の方に「ことば」や生活について話を聞きました。

アンケート調査の結果などは、町 HP で確認できます。

http://www.town.kutchan.hokkaido.jp/town_administration/intecultural/

「ことば」アンケート調査の結果では、日本人住民は、外国人との生活で大切なことを「ことば」と考える人が多く、外国籍住民は、「日本語の学習意欲が高く」、町へ「日本語教室の充実」や「情報の多言語化」など、**ことば**に関する取り組みを期待する声が多くありました。

「交流」

日本人住民は、多文化共生のため自身ができることを「あいさつ」や「気軽に話をする」と考える人が多く、外国籍住民は、町へ「日本人との交流機会の充実」を求めるなど、**交流**に関する声が多くありました。

アンケート調査の結果からは国籍を問わず、多文化共生の実現にはことばと交流を重視していることがわかります。日常のあいさつは、今日から誰でも始めることができる多文化共生の取り組みです。

ことばを通じ歩み寄り、住民同士の交流を深めることは、互いの親しみやすさと暮らしやすさの向上につながるのではないのでしょうか。

——日本語を勉強しようと思ったきっかけは？

「スキー場で困っていたときに、2 人の日本人が親切にしてくれたことがありました。その後も彼らと一緒に行動し、それがとても楽しかったのがきっかけで、観光パンフレットなどに書かれていないような日本の人や文化を、もっと知りたいと思いました」

——日本語を勉強して良かったことは？

「会話を通して相手を深く知ることができるので、より親しくなれました。さまざまな場所や場面で、自分からコミュニケーションが取れるようになり、気の合う仲間も増えました」

——倶知安での生活は？

「私は日本語が話せるので、生活で困ることはほとんどありませんが、知り合いには日本語が話せない人もいます。引っ越しの際に、私が一緒にあいさつに行くなど、近隣に住む方との橋渡し役になることで、その後も相手と良い関係を築くことができます」

——これからの生活は？

「冬だけではなく夏も楽しみ、共通の趣味や話題を持つ仲間を増やしていきたいです」



ジェフ・リョウさん

(中国国籍)

香港出身のジェフ・リョウさんは、趣味のスノーボードを楽しむ観光客でしたが、倶知安町を訪れる回数が増えるにつれて、滞在期間も長くなり、徐々に知り合いも増えていったことから、次第にこの町で暮らしたいとの思いを持つようになったといいます。

3 年前に町内で起業し、この町で生活を始めたジェフさんに話を聞きました。